

プレゼンテーションのスキル vol. 4

ファイナンシャルプランナー 岩城みずほ

あっという間に4月も下旬になりました。中目黒の八重桜は今は満開。間もなくGWが始まりますが、フレッシュャーのみなさんは、ようやく一息つけるといったところでしょうか。

さて、今日は、プレゼンの事前準備についてです。
プレゼンを成功させる秘訣は、やっぱり準備にかかっていると思います。
「努力は人を裏切らない」と言いますが、周到的な準備をすれば、誰でも絶対、いい結果をだすことができます。少なくとも前より格段によいプレゼンをすることができるでしょう。

なぜか。
それはもちろん「自信」ができるからです。
「これでもう大丈夫」と思えるまで準備をすること。これにつきます。
心配なら、心配が解消されるまで準備をすればいいのです。
「プレゼンの練習をしてはいけない」という人もいますが、わたしは絶対すべきだと思います。実際に大きな声で、時間を計りながら、本番さながらで何度も練習をしてください。

プレゼンの成功は、話し手の「自信」によるところが大きいのです。自信をもって語れば、メッセージは必ず相手に伝わります。

では、具体的にはどんな準備をすればいいのでしょうか？
レジュメの準備をする。話の流れを作り、確認をする。
慣れないうちは、一度原稿におこしてみるのも1つの方法です。書くと言いたいことが整理できますし、頭にも入ります。
でも、注意点もあります。書いたら忘れること。つまり、本番で書いた原稿を読んだりしないことです。

書き言葉と話し言葉は違います。書き原稿を読むくらいなら、印刷してお配りするほうが数段親切です。書くのはあくまで準備段階での作業なのです。

書いた通りにしゃべらなくてはならないという気持ちも絶対に持たないでください。書いたらもうその原稿は見ない！くらいの決意で、原稿を忘れてください。

—コラムの無断転写・転載などを禁じます。—

さい。思い出そうとすると絶対に失敗します。それに、聞く側もぜんぜんおもしろくありません。ライブ感があってのプレゼンですものね。

話のポイントをメモし、それを見て話をするというのはOKです。一度書いた原稿は、お守りです。話している間に、よみがえり、きっと何度も助けられることでしょう。

出そうな質問を想定して、答えも考えておいてください。

プレゼンは、いいたいことを言うのではなく、相手が知りたいことを話すことが大切です。想像力を膨らませて、相手がどんなことに疑問をもつのだろうと、事前に列挙し、回答をかんがえておくと、お守り（＝自信）は増えます。

発声練習、表情が固くならないように鏡の前でチェックするなどなど、できる準備は全部しておきましょう。服装だって大切です。印象がよく、着心地のよい洋服を選んでください。

そして、当日。

プレゼンの前には、「あれだけやったんだから絶対に大丈夫！」と自分を励ましてあげてくださいね。きつとうまくいきます。